

質問者



藤岡 緑 議員

Q

続、新型インフルエンザ対策は(小・中教育現場)

A

感染拡大を防ぐため行事の規模を縮小します

問

新型インフルエンザ流行による小・中学生の生活への影響、今後の対策は。また教育的見地からどのようなケアや指導が行われているのか。

答

永見教育長

当町のインフルエンザの集団発生は、10月以降すべての小・中学校へ拡大し、その防止策として学級内感染が1割以上で学級閉鎖、多い場合は学年閉鎖を行いました。

また音楽会等の学校行事は、全校規模から学年単位にするなど、すべて中止するのではなく規模を縮小して実施しました。

更に学級閉鎖中の児童については担任の家庭訪問や個別指導などが行われ、不足した授業時間の確保も工夫しています。高校入試を控える受験生の対策として、当日と重なった時のため後日追試も可能となり、予防接種の情報等も確実に生徒や

問

青少年の薬物乱用問題について

保護者に伝えています。

未来に向かう青少年の心と体を蝕む薬物の予防

教育、依存症の危険性のある酒、たばこについても適切な指導が必要と考えるが、当町の実態と取り組みを伺う。

答

薬物乱用防止教育は極めて大切だと考えます

永見教育長



この笑顔 守ろう 薬物汚染から

本町の青少年の薬物使用による検挙、補導状況は平成20年度で覚せい剤や大麻などの薬物検挙はなく、無職少年のシンナー乱用が二件ありました。薬物乱用防止教育については、小学校においては5・6年生に保健授業で病気の予防や健康に関連づけて教えています。中学校では、保健体育授業や特別活動において喫煙、飲酒、薬物乱用行為の問題性、危険性につきパンフ等を利用し警察学校、薬剤師、保健所職

問

増える高齢者虐待の実態と対策は

最近特に増加している高齢者に対する虐待の防止と権利擁護について当町の実態を伺う。

答

虐待防止の意識啓発と早期発見に努め被害拡大を防ぎます

門田健康課長

平成20年度の高齢者虐待が疑われる相談、通報は重複も含めて13件で、内容は身体的虐待が7件、介護や世話の放棄5件、

心理的、経済的虐待がそれぞれ2件ありました。

ほとんどが介護認定を受けた高齢者で認知症のケースが多く、担当のケアマネジャーなど介護関係者からの通報によるものです。

通報後の対応については、主に地域包括支援センターが窓口で担当ケアマネジャー、サービス提供機関などと連携して事実確認を行い、ケースに応じて介護サービスの利用支援等を実施しています。特に生命、身体に危険性がある場合は、センターの職員が積極介入し、医療機関への入院支援や介護老人福祉施設への措置入所等の対応をしています。

認知症などで財産管理や適切な権利行使ができない人のための成年後見制度の利用手続きも行っています。今後も意識啓発に努め虐待による被害防止のため支援していきます。